

## 福音...

# 来るべき至福千年に向けたメッセージ(良き知らせ)

「もう一つの重要なこと、間もなくこの世に実現する神の統治について、皆様に良き知らせがあります」と伝道者が教会で説教をするのを最後に聞いたのはいつのことでしょうか？恐らく、聞いたことは一度もないでしょう！これは、圧倒的多数の伝道者がキリストの真の福音を理解していないか、または信じていないからです！

非常に多くの人々がイエス・キリストに“関する”福音の事を耳にしていますが、彼らは、この世に主がもたらされた福音、主が弟子たちに説かれた福音を、聞いたことが無いのです！イエス・キリストは、「神の王国の福音」を説くためにこの世に来られたのです。主が説かれた事を理解している人はごく僅かです！衝撃的に聞こえるかも知れませんが、或いは信じられないかも知れませんが、クリスチャンだと公言する多くの人々が真の福音を聞いたことが一度も無いのです！

ガーナー・テッド・アームストロング 著者

「主イエス・キリストを心の底から信じなさい。そうすれば救われます！」という言葉、皆様は何回くらい聞きましたか？毎週日曜日に全米で放送される何百ものラジオやテレビ番組を通して、また何千もの教会で、人々は、神の子イエス・キリストに関する物語を何回も耳にします。

彼らは、主の御名が讃えられるのを聞きます。主が罪びとを救うために死なれたことを聞きます。勿論、これはすべて真実です。また、主が弟子たちに説かれたメッセージ(良き知らせ)―世界中の人々に布告し広めるように主が弟子たちに命じられたメッセージ―を完全に無視するのでない限り、イエス・キリストについて語ることは何も悪いことではありません！

驚かれるかもしれませんが、―「キリストに拠って信じる」と信仰告白する無数のクリスチャン(本当にその通りのクリスチャン!)が、主がもたらされたメッセージを聞いたことが一度も無いのです！

遺産の事で親戚からの知らせをあなたが待っている、と仮定して下さい。自転車で乗ったウェスタンユニオンの電報配達員の青年が玄関先で、黄色い紙片を手にして振っている姿を想像して下さい。その時、あなたは、その彼が何と「ハンサムで身だしなみの良い青年だろうか」と感嘆の声を上げて、さっぱりとしたヘアスタイルやアイロンのよくきいた清潔な制服について印象を述べているのです。あなたは、彼が人念に整髪して爪も清潔にしていることに気がきます。また、かれのとても礼儀正しい態度を褒めます。そしてあなたは、今まで出会った中で「最高に素敵な青年配達員」のこと - 彼が勤勉なアメリカ青年の何と素晴らしい実例であるかということ - を友人すべてに話したくて仕方ありません！

しかし、あなたは、彼が届けに来たメッセージ、間もなく実現する、これまでとは異なる新しい統治を伝えるメッセージ、あなたが夢にも思わなかった財産の幸運な相続人であることを伝えるメッセージについて、彼に尋ねることを完全に無視しているのです！

このような話の筋書きは、きっと滑稽に聞こえるでしょう！

ではどうして、メッセージを届けに来た使者についての話は数え切れないくらいに何度も聞いてきたにもかかわらず、主がもたらされたメッセージを真に聞いた事が無いのでしょうか？何百万もの人々が耳にしてきた「福音」が、よく聞きなれた「昔々の物語」(Tell me The Old, Old Story)という賛美歌と同じように、何か古い大昔の出来事になってしまったような印象をうけます。ラジオやテレビの番組を通して、また各地の教会で伝道者から「福音」のことを聞いていると信じている人々は、「イエスとイエスの愛」について、何度も何度も聞かされています。彼らは、大変古い物語 - 二千年もの遠い昔の出来事 - を聞いていると思っています。

福音書は、キリストの死、埋葬、復活の物語のみではありません。福音書は、それ以上に、主がもたらされたメッセージなのです。主が労を惜みず弟子たちに説かれた驚くべき良き知らせ、主が世界中に広めるように弟子たちに託された喜ばしい知らせなのです！

信じられないかも知れませんが、イエス・キリストが説かれた福音は、今日の私達の時代、そしてごく近い未来に関係しているのです。「福音」という言葉自体には、未来のメッセージ、つまり次の世紀、そして永遠の未来へと続く世界についての告知という意味が含まれています。

キリストがもたらされた良き知らせには、人間である誰もが直面して最も困惑する次のような疑問に対する答えも含まれています。我々は誰なのか、我々は何者なのか、何故、我々はこの世に存在するのか？ - 我々は、年老いていく肉体に宿る感覚に備えた「魂」なのか、肉体が死んでも生き続ける意識を有する「魂」なのか？ - 我々は、多数の「魂」が世界中で日々誕生する魂の製造所で暮らしているのだろうか、そして同様に、多数の「魂」が肉体の死と共に天国へ軽やかに上るか、或いは「地獄」へ落ちて行っているのだろうか？

神は、悪魔が「地獄」に落ちてくる魂を迎えながら歓喜のダンスをしている一方で、「天国の門に立つ聖ペテロ」に新しくやってくる魂を迎える仕事を任せて、すべてを動くように用意してから「遠い彼方」、つまり「天国」の何処か素敵なところに去ってしまった「不在地主」のような存在なのだろうか？

## 神の王国についての良き知らせ

連合王国、オランダ王国、またはヨルダン王国について私が執筆するのであれば、政治、特定の国家または帝国、主または女王、法体系、主権支配の対象となる王国の臣民、等の話題について執筆することになると、皆様は直ぐに理解されるでしょう。

しかし、私が「神の王国」について語るとなると、たちまち、「固定概念に捕らわれてしまう」かのようです！すべてが突然、天上の漠然としたこと、「あの世の」霊的で神秘的なこと、「非現実的」なことになってしまうのです。！福音書作者の中ではマタイだけが言うところの「天の王国」、或いはマルコ、ルカ、ヨハネが言うところの「神の王国」は、多くの人々にとって、現実的なことではなく、何かとても空想的・超現実的な王国のことなのです。

何故そうなるのか、ということを理解している人は殆どいません！しかし、これには理由があります。この理由には、キリストがこの世にもたらされたメッセージ(良き知らせ)を曲解することで、完全に異なるメッセージー神の王国の福音ではない「もう一つの福音」ーにして人を惑わそうとする意図的なたくらみが関係しています。

神の言葉は、サタンと呼ばれる大悪魔がうそと不可解な「秘法」を用いてあらゆる民族や国民を欺き、明快な福音書の真実を完全に覆い隠してしまうことを、わたしたちに教えています！神の言葉はこう述べています。「さて、天で戦いが起こった。ミカエルとその使いたちが、竜に戦いを挑んだのである。竜とその使いたちも応戦したが、

「勝てなかった。そして、もはや天には彼らの居場所がなくなった。

「この巨大な年を経た蛇、悪魔とかサタンとか呼ばれるもの、全人類を惑わす者は、地上に投げ落とされたのである。その使いたちも、もろともに投げ落とされた」(黙示録12章7-9節)。

あなたがカトリック教徒にしてもプロテスタント教徒にしても、名ばかりのクリスチャンならば、それは、あなたがすべてのヒンドゥー教徒は騙されていると確信しているのと同じことです。神道信者、精霊信仰者、儒教信者、正統派ユダヤ教徒はすべて騙されていると考えていることになります。カトリック教徒はプロテスタント教徒が騙されていると考えており、プロテスタント教徒はカトリックが騙されていると考えているのです。要するに、騙されている人は

誠実な人であるということ、また、騙したり騙されたりすることは、誠意とか、誠実さとか、倫理観とは無関係であるということ、を、大多数の人々が認めているのです。人が騙されていると考えることは、その人が悪い人だというのではなく、誠実だが誤解をしているのだと考えることと同じことです。注目してください！パウロは、コリント人に真実を語る時賢明な策略や欺きの手段に訴えることはしなかったと述べています。パウロはこう述べています。「...密かに不実なことをせず、悪賢く歩まず、神の言葉を用いて人を欺くことをせず、真理を明らかにすることにより、神の御前で自分自身をすべての人の良心にゆだねます。

「私たちの福音に隠されていることがあれば、それは、道に迷える人々に対して隠されているのです。

「この世の神 [サタン!] が、信じないように人々の心の目をくらまし、神の似姿であるキリストの栄光に関する福音の光が見えないようにしたのです」(II コリント人への手紙 4章 2-4節)。ここでの「道に迷える」という表現は、ギリシャ語では現在進行形または不定過去になっています。つまり、「道に迷いつつある」という意味になっています。

何百万もの人々が騙されています！彼らは、真実に対して霊的に盲目なのです。理解できなくて困惑する民衆に語りかける主の話し方について弟子が質問した時、キリスト自身がこう答えておられます。「それ故、わたしは彼らにはたとえ「とんち、なぞかけ」を用いて話すのである。彼らは、見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、理解することもしないからである。

「こうして、イザヤ書の預言が彼らに対して実現したのである。あなたたちは聞くには聞くが、決して理解せず、見るには見るが、決して認めない。

「この民の心は鈍り、耳は遠くなり、目は閉じてしまった。こうして、彼らは目で見ることなく、耳で聞くことなく、心で理解せず、悔い改めていやされることがないためである」(マタイ書 13章 13-15節)。

このキリストの平易な言葉は、カトリック教会でもプロテスタント教会でも引用されることは殆どまったくありません。何故でしょうか？それは、すべての福音主義者の根底にある信念 — 彼らがイエスに関する自分たちの「昔々の物語」の根拠とする前提 — に真っ向から対立するからです！彼らは、キリストがすべての人を回心させようとされた、と勝手に思い込んでいるのです。主がこの世における 33年の歳月において、誰も拒むことなく、「世界を救う」ために尽力されたと勝手に推測しているのです。そうではありません。主ご自身の弟子たちでさえ、彼らが聖霊を吹き込まれる聖霊降臨の日が過ぎるまで悟らなかったのです。

この驚くべき出来事に先立って、弟子たちはこの世で最後に、イエス・キリストに接するので、それまでに、主は1ヶ月と10日の間、何度も何度も彼らの前に出現されました。次の

記述に注目してください。「イエスは受難の後、御自分が生きていることを数多くの証拠をもって使徒たちに示し、四十日にわたって彼らに現れ、神の王国について話された。

「そして、彼らと食事を共にしていたとき、こう命じられた。『エルサレムを離れず、前にわたしから聞いた、父の約束されたものを待ちなさい。

「ヨハネは水で洗礼を授けたが、あなたがたは間もなく聖霊による洗礼を授けられるからである

「さて、使徒たちは集まって、『主よ、イスラエルのために国を立て直して下さるのは、この時ですか』と尋ねた。

「イエスは言われた。『父が御自分の権威をもって定められた時や時期は、あなたがたの知るところではない。

あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そしてエルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリアの全土で、また、地の果てに至るまで、わたしの証人となる』（使徒行伝1章2-8節）。

注目して下さい。主の弟子たちはイスラエル国家、つまりイスラエル王国の再興について尋ねています！彼らは、すべての国家を包含する地球全体の王国ということは理解できなかったのです。彼らは、イスラエルがソロモンの死の時まで享受していた偉大な国家、つまり現在のシリアからチグリス川・チグリス川・ユーフラテス川、ナイル川デルタ地帯にまで広がるダビデの王国、或いはソロモンの王国のような国家が再興されることを期待していたのです。

キリストの弟子たちは長い間、主が「その時代にそこで」、主の王国を築かれると信じていました。彼らは、その事を、主の3年半に及ぶ活動期間における多数の出来事 — 例えば、4、5千人に食べ物を与えたこと、宮の中で尚書人の台を倒したこと、エルサレムへの勝利の入場のこと、などを通して確信していました。彼らは、主が民衆を蜂起させて腐敗したサンヘドリン（古代エルサレムの最高議会）を倒し、ローマの占領軍を追放し、即位することになると信じていました。自分たちの使命が世界全体に及ぶことを真に理解し始めたのは、聖霊降臨日に奇跡的に聖霊が顕現してから後のことです。その時でさえ、主の王国、主のこの世の統治が、自分たちの生きている間に実現すると信じていたのです！

パウロでさえ、そう考えていました。彼はこう述べています。「兄弟たち、私はこのことを言っておきます。血肉の体は神の国を相続できません。朽ちるものは、朽ちないものを相続できません。

「わたしはあなたがたに神秘を告げます。私たちはみな、眠りにつくわけではありません。私たちは皆、今とは異なる状態に変えられます。

「最後のラツパが鳴るとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラツパが鳴ると、死者は復活して朽ちない者とされ、私たちは変えられます（1コリント人への手紙 15章 50-52節）。パウロの言う「私たち」には、彼自身と彼とともに働く人々、そしてコリントの兄弟たちが含まれています。

私たちは聖書を読むとき、「その時あそこで」という視点で考える傾向にあります。プロテスタント教会もカトリック教会も、「昔々の物語」としての聖書を、カビが生えてほこりをかぶった二千年以上も前の遠い過去の物語にする傾向があります。しかし、あなたも私も、「今ここ」に生きていることは分かっています。困ったことに、私たちは使徒たちが日常生活において「今ここ」に生きていたのだということを悟って、聖書の言葉を同じ次元で自分たちに適用することが殆どありません。

パウロ、ペテロ、ヨハネ、ルカも、つまり新約聖書のいずれの作者も、自分たちがすべて死んで墓の中で朽ちていき、その間に幾世紀もの歳月－4世紀、7世紀、13世紀、そして19世紀－がゆっくり過ぎていくことになるとは思っていませんでした。キリストは21世紀の前半になるまでこの世に再臨されないということを、まったく理解していませんでした！

もし彼らがこのことを知っていたら、彼らにとってそれは何と残酷なことだったか考えて下さい！このようなことを知っておれば、神の仕事をしようという断固たる情熱は生まれなかったでしょう！むしろ、敗北主義的になっていたことでしょう！

彼らは時の経過に完全に気づかず、墓の中に横たわっているのですが、彼らの命に関する限り、パウロが言った通りに、復活が実現するでしょう。彼らは（彼らの意識に関する限り）「たちまち、一瞬のうちに」、神の王国に生きることになるでしょう！

彼らは、本当に「若き革命家」だったのです。派閥、党派、集団、民兵、グループ、臨時政府、クラブ、遊び仲間、などを形成する過去および現在の何百万もの若者と同じだったのです。現政権を倒そうとする見当外れの団体や組織の若者と同じように、彼らは、今までとは異なる新しい政権を築こうとする何か素晴らしいことに参加していると信じていたのです！そのような政権が、自分たちの生きている間に直ぐにでも実現すると信じていたのです！

上記で使徒行伝1章から引用したように、彼らの質問が、このことを完全に証明しています！

彼らは、来るべき幾世紀もの時の流れについては、尋ねていません。彼らは、遠い土地や国のこと―大ブリテン島、スペイン、アフリカなどのこと―などについては尋ねていません。彼らは、イスラエル、つまり彼らの故郷に王国（政権）を再興することしか尋ねていません。

## 神の王国についてのパウロのメッセージ（良き知らせ）

使徒パウロは絶えず、神の王国について説教しています！彼は、それだけでなく、当時存在した唯一の聖書である旧約聖書における王国の福音についても説教しています。

キリストは、弟子たちに教えを説かれるとき、まさにパウロがしたような説教のお膳立てをされていたのです。ルカは、女性たちや弟子たちがキリストの復活を如何に信じたがらなかったということを書き記しています。また、キリストが、主自身のこと、主の偉大な永遠の過去のこと、主の差し迫った受難・死・埋葬・復活のこと、主の主・主の王としての栄光につつまれた主の再臨のこと等について、旧約聖書に基づきすべてを弟子たちに如何に説明されたかということを書き記しています。「そこで、イエスは言われた。『ああ、物分りが悪く、心が鈍く、預言者たちの言ったことすべてを信じられない者たち、

「キリストはこういう苦しみを受けて、栄光に入るはずだったのではないか」

「そして、モーセとすべての預言者から初めて、聖書全体にわたり、ご自分について書かれていることを説明された」（ルカ書24章25-27節）

皆様は、教会で、現代の伝道者が完全に旧約聖書のみに基づいてキリストのことを説教するのを聞いたことがありますか？キリストはそうされたのです！パウロはそうしたのです！ペテロはそうしたのです！ヨハネはそうしたのです！新約聖書における教会では、すべての使徒たち、伝道者たち、牧師たち、司祭たち、教師たちがそうしたのです！

彼らは、西暦紀元52年にパウロがテサロニケ人に手紙を書くまで、「新約聖書」の断片すら持っていなかったのです。テサロニケ人は、想像力を働かせるまでもなく、パウロの手紙に「靈感を受けた神聖な書」としての重要性を認めました！他の使徒たちは誰も、このような手紙の存在を知らなかったのです。多分、彼らの誰も読んだことはなかったでしょう！しかし、テサロニケ人への手紙Iが、マタイ福音書と共に、新約聖書の最初の二編になったのです！

ここで、キリストがご自身について弟子たちに説くときに引用された聖書の文章の幾つかに注目しましょう。「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれました。ひとりの男の子が私たちに与えられた。王国の統治は彼の肩にある。その名は、不思議な存在、指導者、全能の神、永遠の父、平和のプリンスと唱えられる。

「ダビデの王座とその王国に權威は増し、平和は絶えることがない。王国は正義と恵みの業によって、今もそしてとこしえに、立てられ支えられる。万軍の主の熱意がこれを成し遂げる」（イザヤ書9章6,7節）。

キリストについてのこの預言は、「最初のクリスマス祝歌」、つまり「リトル・ロード・ジーザス」についての子守歌のようなものではありません。この預言は、神の子としてのキリストについてのシロップのように甘ったるくて感傷的な物語ではありません。この預言は、主の莊嚴な權威、主の偉大な使命、主は誰であるのか、主は何であるのか、主は何故この世に來られたのか、主は何を説かれたのか、主は何故死なれたのか、主は何故、復活されたのかということをお話しているのです！無数の勝利する天使たちの先頭に立って世界を統治する政權を築くために、主がこの世に再臨されるといふ眞實を告知しているのです！

いかにパウロが繰り返し神の王国のことを力説しているか、ということに注目して下さい！「そこで、ユダヤ人たちは日を決めて、大勢でパウロの宿舎にやってきました。パウロは朝から晩まで説明を続けた。神の国について力強く証しし、モーセの律法や預言者の書を引用して、イエスについて説得しようとしたのである。」（使徒行伝28章23節）。

キリストが、「モーセの律法」と呼ばれる旧約聖書の最初の五書だけでなく、イザヤ書、エレミヤ書、エゼキエル書、ダニエル書、およびその他の預言者に基ついて弟子たちに説かれたと同じことを、すべての使徒たちが行ったのです。忘れないで下さい。これらが当時存在していた唯一の「聖なる書物」、すなわち「聖書」だったのでした！

自宅軟禁の状態でシーザーの裁判を待っていたパウロは、自己の天命に不動の信念を抱いていました。注目して下さい。パウロは、自費で借りた家に丸2年間住んで、訪問する者はだれかれなく歓迎し、

「完全な確信をもって、誰にも妨げられることなく、神の国を宣べ伝え、主イエス・キリストについて教え続けた」（使徒行伝28章31節）。ルカは、意図的にこの文章を選んで、友人テオフィラスへの長い話を締めくくっています。これらの文章は、西暦紀元60年代後半、つまり主の復活からの約30年後に書かれたものです。

## 王国とは何でしょうか？

前述したように、「連合王国」（英国）のことを話すのであれば、私たちは誰も理解に困ることはありません。しかし、「神の王国」についての話になると、精神的・霊的な幻想や混乱が関与してくるのです。クリスチャンだと公言する信者の一人の一人すら、この良き縁の地球にイエス・キリストの下で新しい世界秩序が構築されることを確信しておらず、期待もしていないのです！

その代わりに、彼らは「天国に行く」ことを考えています。



しかし、これはまったく馬鹿げたことで、靈感を受けて書かれた聖書にある試練に耐えることはできないでしょう。

王国を構成するには王が必要です。間もなくこの世に築かれることになる主の王国の王は、ナザレのイエス・キリストです！

上記に引用したイザヤ書9章を思い出して下さい。ここで、命のかかった裁判に際して、キリストがピラトに言われたことに注目しましょう。「イエスはお答えになった。『わたしの王国は、この世には属していない。もし、わたしの王国がこの世に属していれば、わたしがユダヤ人に引き渡されないように、部下が戦ったことだろう。しかし、今は、私の王国はこの世には属していない』

「そこでピラトが、『それでは、やはり王なのか』と言うと、イエスはお答えになった。『私が王だとは、あなたが言っていることです。わたしは真理について証しをするために生まれ、そのためにこの世に来た。真理に属する人は皆、わたしの声を聞く』（ヨハネ書18章36,37節）。

ギリシャ語の「世界」（この世）という言葉は、「社会」即ち世の中の制度・組織を意味するコスモス（cosmos）が語源です。キリストは、主の王国がその時の「この世」に属するものではないと言われていることに注意して下さい！

さてここで、ヨハネの説明に注目しましょう。キリストが再臨される時、主の再臨と戦う獣の力を有する軍勢を主が征服されることについて、ヨハネは、次のように記しています。「この者ども[獣の軍勢]は子羊と戦うが、子羊は主の主、王の王だから、彼らに打ち勝つ。子羊と共にいる者、召された者、選ばれた者、忠実な者たちもまた、勝利を納める」（黙示録17章14節）。

ここで、キリストの再臨についての記述に注目しましょう。「そして、わたしは天が開かれているのを見た。すると、見よ、白い馬が現れた。それに乗っている方は、「誠実」および「真実」と呼ばれて、正義をもって裁き、また戦われる。

「その目は燃え盛る炎のようで、頭には多くの王冠があった。この方には、自分のほかはだれも知らない名が記されていた。

「また、血に染まった衣を身にまとい、その名は神の言葉と呼ばれた。

そして、天の軍勢が白い馬に乗り、白く清い麻の布をまとい、この方に従っていた。

「この方の口からは、鋭い剣が出ています。諸国の民をそれで打ち倒すのである。また、自ら鉄の杖で彼らを治める。この方はぶどう酒の絞り桶を踏むが、これには全能の神の激しい怒りが込められている。

「この方の衣と腿のあたりには、王の王そして主の主という名が記されていた」（黙示録19章11-16節）。

クリスチャンだと公言する誰が、この激烈で荘厳な預言の明白な意味を疑うことができるでしょうか？キリストは、鉄の杖をもってこの世を統治するために再臨されるのです！

主の王国の王は、イエス・キリストです！「来るべき神の統治の良き知らせ」とは、「神の王国の福音」のことです。それは、曖昧模糊として、靈妙で、無意味なことではなく、素晴らしいこの世の統治を力強く予告するメッセージ（良き知らせ）なのです！

### 王国には領土が必要です

グレートブリテン王国（英国）は現在、昔の「大英帝国」ではなく、「グレートブリテンおよびアイルランド連合王国」と呼ばれています。そこには、イングランド、ウェールズ、スコットランド、および北アイルランドが含まれています。王は、領土を統治します！

キリストの王国は、多くの人々が想像するような「天」に存在する漠然とした「王国」ではありません。それは、ここ、この世に築かれるのです！

大天使ガブリエルが聖母マリアに、すべての人類の救い主の誕生が訪れることを告知する預言に注目して下さい。「すると、天使は言った。『マリア、恐れることはない。あなたは神から恵みをいただいた。

『あなたはみごもって、男の子を産むが、その子をイエスと名づけなさい。

『その子は偉大な人になり、いと高き方の子と言われる。主なる神は、彼に父ダビデの王座をくださる。

『彼は永遠にヤコブの家を納め、その国は終わることがない』（ルカ書1章30-33節）。

ダビデの王座はどこにあるのでしょうか？それは、ここ、この世にあるのです！神が、この世の永遠の王座をダビデに無条件で約束したことを証しするために、ナタンを使わしたことに注目して下さい。「わたしの僕ダビデに告げよ。万軍の主はこう言われる。わたしはあなたを、羊の群れを追う牧場からとり、わたしの民イスラエルの統治者にした。

「あなたがどこに行こうとも、わたしはあなたと共にいて、あなたの行く手から敵をことごとく滅ぼした。わたしは、地上の大いなる者にならぶ名声をあなたに与えよう。

「わたしの民イスラエルには一つの場所を定め、民をそこに住みつかせる。彼らはそこに住みついて、もはや、おののくことはなく、昔のように不正を行う者に苦しめられることもない。

「わたしの民イスラエルの上に士師を立てたところからの敵をわたしがすべて退けて、あなたに安らぎを与える。主があなたのために家を興すことを、主はあなたに告げる。

「あなたが生涯を終え、先祖と共に眠るとき、あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、その王国を樹立する。

「彼はわたしの名のために家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえに堅く据える

「わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。彼が過ちを犯すときは、人間の杖、人の子らの鞭をもって彼を懲らしめよう。

「わたしは慈しみを彼から取り去りはしない。あなたの前から退けたサウルから慈しみをとり去ったが、そのようなことはしない。

「あなたの家[家系]、あなたの王国は、わたしの目の前でとこしえまでも続き、あなたの王座はとこしえに堅く据えられる」(II サムエル記 7章8-16節)。ダビデは、この世において最後となる言葉の中で、こう言っています：「...神は永遠の契約をわたしに賜る...」(II サムエル記 23章5節)。

(神がダビデと結ばれた永遠の契約、および聖書の預言における英国王室と英国国民の身分証明並びに合衆国の身分証明に関する驚くべき真実については、「預言の中のヨーロッパとアメリカ」(Europe and America in Prophecy)で詳しく解説しています。手紙また電話でお申し込み頂ければお送りしますので、是非ご一読下さい)

神は、ダビデに彼のこの世の王座は永遠であることを約束しています！キリストは、この世の王座を継承するために再臨されるのです！ここで、神の王座が天からこの世に降りてくる様子がどのようにしてヨハネに啓示されたか、読むことにしましょう。「更にわたしは、聖なる都、新しいエルサレムが、夫のために着飾った花嫁のように用意を整えて、神のもとを離れ、天から下ってくるのを見た。

「そのとき、わたしは王座から語りかける大きな声を聞いた。『見よ、神の幕屋が人と共にある。神は人と共に住み、人は神の民となる。神は自ら人と共にいて、その神となり、

「彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、悲しみ、嘆き、苦しきもない。なぜなら、以前のものがもはや過ぎ去ったからである」(黙示録21章2-4節)

この世は、イエス・キリストと復活した聖人が統治する領土です。聖人たちは、その時、神から生まれる者になり、「一瞬のうちに朽ちない存在に変えられるのです」(1コリント人への手紙 15章50-52節)。次の言葉に注目して下さい。「勝利する者に、わたしの業を終わりまで守り続ける者に、わたしは、諸国の民の上に立つ権威を授けよう[人間の国家は天国にではなく、この世にあります!]

「彼は、鉄の杖をもって彼らを治める、土の器を打ち砕くように。同じように、わたしも父からその権威を受けたのである」(黙示録2章26節)。

イエス・キリストは、乗るべきこの世の王国のことを弟子たちに繰り返し語られています。主が話された高貴な若者についてのたとえ話に注目して下さい。「イエスは言われた。『ある立派な家柄の人が、遠い国へ旅立つことになった。王位を受けて帰るためであった。

「そこで彼は、十人の僕を呼んで、十ミナ(ミナ:通貨単位)を渡し、『私が帰って来るまで、これで商売をなさい』と言った。

「しかし、住人たちは彼を憎んでいたもので、後から使者を送り、『この人が王になるのを、我々は望んでいない』と言わせた。

「さて、彼は王位を受けて帰って来ると、金を渡しておいた僕を呼んで来させ、どれだけ利益を上げたか知ろうとした。

「最初の者が進み出て、『御主人様、あなたの一ミナで、十ミナもうけました』と言った。

「主人は、言った。『良い僕だ。よくやった。お前はごく小さな事にも忠実だったから、十の町の支配権を授けよう』と言った。

「二番目の者が来て、『御主人様、あなたの一ミナで、五ミナもうけました』と言った。

「主人は言った。『お前には五つの町の支配権を授けよう』と言った。

「また、ほかの者が来て言った。『御主人様、これがあなたの一ミナです。布に包んでしまっておきました。

『あなたは預けないものも取り立て、蒔かないものも刈り取られる厳しい方なので恐ろしかったのです』

「主人は言った。『悪い僕だ。その言葉のゆえにお前を裁こう。わたしが預けなかったものを取り立て、蔭がなかったものも刈り取る厳しい人間だと知っていたのか。』

「ではなぜ、わたしの金を銀行に預けなかったのか。そうしておけば、帰って来たときに、利息付でそれを受け取れたのに』

「そして、そばに立っていた人々に言った。『その一ミナをこの男から取り上げて、十ミナもっている者に与えよ』

「（僕たちが、『御主人様、あの人は既に十ミナ持っています』と言った。）

「主人は言った。『言うておくが、だれでも持っている人は、更に与えられるが、持っていない人は、持っているものまでも取り上げられる』（ルカ書19章12-26節）。

キリストがその高貴な若者です。「遠い国」は、天国を象徴しているのです。僕たちは金を渡されるのですが、この金は、才能、能力、責任、天職と同じことです。各人がそれぞれの天与の能力に応じて責任を与えられているのです。報酬が町（都市）の支配権であることに注意して下さい！キリストがこの世への再臨を繰り返し強調されていることに注意して下さい。僕たちは、天には上っていません！

聖人たちは大声で言っています。あなたは、「...あらゆる種族と言葉の違う民、あらゆる民族と国民の垣根を超越して、ご自分の血で、神のために人々を贖われ、

「わたしたちをわたしたちの神に仕える王や祭司とされました。わたしたちは、この世を統治します」（黙示録5章9,10節）。

イザヤ書11章の全体を通して読んで下さい。ここには、キリストの至福千年の統治の間、この世に存在するための条件が記されています。次に、その教節を引用します。

「正義をもって貧しい人を裁き、公正をもってこの世の従順な人を弁護する。その口の鞭をもってこの世の住人を打ち、唇の勢いをもって逆らう者を死に至らせる。

「正義をその腰の帯とし、眞実をその身に帯びる。

「狼は子羊と共に宿り、豹は子山羊と共に伏す。子牛は若獅子と共に育ち、小さい子供がそれらを導く。

「牛も熊も共に草を食べ、その子らは共に伏し、獅子も牛もひとしく干し草を食べる。

「乳飲み子は毒蛇の穴に戯れ、幼子は蝮の巣に手を入れる。

「わたしの聖なる山においては、彼ら [貪欲な獣、捕食者、毒蛇] は害を加えず、殺すこともない。水が海を覆っているように、大地（この世）は主を知る知識で満たされる」（イザヤ書11章4-9節）。

神は、更に言っています。「その日が来れば、主は再び御手を下して、御自分の民の残りの者を救い出される。彼らはアッシリア、エジプト、上エジプト、クシュ、エラム、シンアル、ハマト、海沿いの国々などに残されていた者である。

「主は諸国の民に向かって旗印を掲げ、地の四方の巢てから、イスラエルの追放されていた者を引き寄せ、ユダの散らされていた者を集められる」（イザヤ書11章11,12節）。

これ以上に明白なものがあるでしょうか？イエス・キリストがこの世に再臨され、千年の間、鉄の杖でもって統治されることは、聖書全体を通して、何度も繰り返し語られているのです！次の言葉に注目して下さい。「主が出てこられる。決戦の日に戦うように、それらの国々と戦われる [これは、黙示録19章に描写されている、キリストの再臨時における大いなる戦いです]。

「その日、主の足は、エルサレムの東にあるオリーブ山の上に立つ。オリーブ山はその真ん中で二つに裂け、東西に延びる非常に大きな谷ができる。山の半分は北へ移動し、他の半分は南へ移動する」（セガリヤ書14章3,4節）。

ここで、主の弟子と聖人についての預言の注目しましょう。「だから、私の父がわたしにそうして下さったように、わたしもあなたがたに国（王国）の支配権をゆだねる。

あなたがたは、わたしの国でわたしの食事の席に着いて飲み食いを共にし、王座に座ってイスラエルの十二部族を治めることになる」（ルカ書22章29,30節）。これらの言葉は、有名な主の「最後の晩餐」の席でイエス・キリストが語られたのです。この時、何人かの弟子たちは、主の王国で「一番偉い」のは誰だろうかと議論を始めています。注意して下さい。彼らは、主が「その時そこで」直ぐにこの世の統治を樹立されると信じていたのです。彼らは、預言が成就するまでに2千年以上もの時が経過することになるとは思いもしませんでした。

キリストは、来るべき王国の王です。主が統治される領土は、この素晴らしい緑の地球です！

余談ですが、至福千年の間、この世は完全な「廃墟」になると信じている安息日厳守主義の人々が大勢います。彼らは、至福千年の間、聖人たちは「上の天国」にいて、「廃墟となったこの世」では悪魔サタンが怒り狂ってさまよっていると考えています。

安息日厳守主義の人々がこう考えるのは、彼らの中の何人かが「女性預言者」と信じているある女性が意図的に聖書を曲解しているからです。しかし、神の言葉はこう言っています。「もし、この言葉に従って語るの でなければ、その人には光がない」。

彼女が、その主要著書の一つである『大論争』(The Great Controversy) で採用している重要な典拠は、イザヤ書24章です。この預言的著作である『大論争』と、イザヤ書24章とを比較検証すれば、聖書が語っていないことを語り、自分の理論を根底から覆す文章を省略するために、彼女が聖書と手の込んだ格闘をしていることが理解できるでしょう！これもまた、いつの時代にも存在する古典的とも言える聖書の曲解の実例の一つです。この24章全体をじっくり注意深く読んで下さい！ここには、イスラエルの地、およびその他の国々に下る神の裁きが告知されています。特に、3節から6節に注目して下さい(参考のために節番号を付記します)。「3節—地はまったく裸にされ、強奪に遭う。主がこの言葉を語られたからである。

「4節—地は乾き、衰え、世界は枯れ、衰える。地上の最も高貴な民も弱り果てる。

「5節—地はそこに住む者のゆえに汚された。彼らが律法を犯し、掟を破り、永遠の契約を捨てたからだ。

「6節—それゆえ、呪いが地を食い尽くし、そこに住む者は罪を負わねばならなかった。それゆえ、地に住む者は焼き尽くされ、わずかの者だけが残された」。

ここで検証のために、上記の引用箇所を以下に再掲しますが、今度は、自称預言者が「荒廃したこの世」という彼女の理論を正当化するために意図的に省略した箇所を肉太活字体で強調しています。

「3節—地はまったく裸にされ、強奪に遭う。主がこの言葉を語られたからである。

「4節—地は乾き、衰え、世界は枯れ、衰える。地上の最も高貴な民も弱り果てる。

「5節—地はそこに住む者のゆえに汚された。彼らが律法を犯し、掟を破り、永遠の契約を捨てたからだ。

「6節—それゆえ、呪いが地を食い尽くし、そこに住む者は罪を負わねばならなかった。それゆえ、地に住む者は焼き尽くされ、わずかの者だけが残された」。

例えば、皆様は、上記の肉太活字体で強調した次のような言葉を意図的に省略するでしょうか。「...地上の最も高貴な民も弱り果てる」「地はそこに住む者のゆえに汚された」「...わずかの者だけが残された！」。

自称預言者の彼女はまた、同じ章に関して次のような省略も意図的に行っています（省略箇所は肉太活字体で表示）。「13節—全世界のただ中、諸民族の間で、収穫の後になお、実を取ろうとしてオリーブの木を揺すったり、取り残されたぶどうを集めたりするようなことが起こる。

「14節—彼らは声をあげ、主の威光を喜び歌い、海から叫び声をあげる。

「17節—地に住む者よ、恐怖と穴と罫がお前に臨む。

「21節—その日が来れば、主は、天では天の軍勢を、地では地上の王たちを罰せられる。

「22節—彼らは捕虜が牢に集められるように、集められ、獄に閉じ込められる。多くの日がたった後、彼らは罰せられる。

ひとりよがりの観念に固執して読者を欺くために、神聖な神の言葉を次から次へと意図的に省略するのは、本当に困ったことです！確かに、イザヤ書24章は、神の民イスラエルに対する力強くかつ恐るべき審判を証ししています。多大な人命が失われ、破壊がもたらされることを証しています。しかし、誰ひとり住む者がいない「荒涼たる大地」を証しているのではありません！聖人が千年間「天国」にいることを証ししているのでもありません！

彼女は更に、『大論争』においてイザヤ書24章6節を引用する際に、聖書ではコンマで区切られているところに終止符を用いています。「焼き尽くされ」のところで終止符を打って、「...そしてわずかの者だけが残される！」という文章を省略しているのです。何と不誠実なことでしょうか！「そして」の前の3つの小さな句読点「...」に注意して頂けましたか？現行の執筆に誠実であるには、こうした句読点の挿入も必要です。この句読点は、そこに言葉が省略されていることを読者に指摘するものです。この場合、その出典の文章を確認して検証することを読者に勧めるために、この句読点を使用しています。この句読点を省略すれば、それは、引用した節がそれで完結していると偽ることになります。

ここで、24章全体のクライマックスとも言える最後の23節に注目しましょう。この節は、主の白およびキリスト再臨の直前に現れる天の啓示に言及しています（黙示録6



章を参照)。「月は辱められ、太陽は恥じる。方軍の主がシオンの山、エルサレムで王となり、長老たちの前に、主の栄光が輝くからである」(イザヤ書24章23節)。

天の啓示の前には大きな艱難が発生し、主の日の前には天の啓示が現れるのです。その証拠に注目しましょう。「主の大きいなる恐るべき日に来る前に、太陽は真っ暗になり、月は血に変わる」(ヨエル書2章31節)。「その艱難の日々の後、たちまち、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天使たちも狼狽する」(マタイ書24章29節)。

従って、ダニエル書および黙示録に描かれている大きな出来事は、次の順序で起きることになります。

- (1) 大きいなる艱難 (マタイ書24章21,22節)
- (2) 天の啓示 (黙示録6章;ヨエル書2章31節)
- (3) 主の日 (ヨエル書2章1節; 黙示録16章)。

神の言葉は、言葉の付け足しや省略を厳しく戒めています。意図的に聖書を曲解することは、大罪になります。

ここで、上記で引用した聖書の文章をすべて再読して下さい。イエス・キリストがこの世に主の王国を築き、復活した聖人と共に千年間、世界の諸国を統治するということが、これらの文章により一点の疑いもなく証しされています！

### 王国には王国に暮らす市民が必要です

キリストと蘇った聖人が統治する領土に生きる住人に関する言及については、上記で既に何度も見てきました。これまでに引用した文章には、キリストの王国の国土となるこの世(地球)に関する記述だけでなく、イスラエルやユダヤをはじめとする多数の国家に関する記述も含まれています。

ここで、王国の住人(臣民)に関する次の言及についても注目して下さい。「その日があれば、エッセイの根は、すべての民の旗印として立てられ、国々はそれを求めて集う。そのとどまるところは栄光に輝く。

「その日があれば、主は再び御手を下して[最初は、主が彼らをエジプトから救出された時]、ご自分の民の残りの者を取り戻される。彼らはアッシリア、エジプト、上エジプト、クシュ、エラム、シンアル、ハマト、海沿いの国々に残されていた者である。

「主は諸国の民に向かって旗印を掲げ、地の四方の巢てから、イスラエルの追放されていた者を引き寄せ、ユダの散らされていた者 [ディアスポラで離散したユダヤ人] を集められる (イザヤ書11章10-12節)。

ここで、すべての国家が世界を統治する神の新政権を如何にして承認せざるを得なくなるか、見ることにしましょう。「終わりの日に、主の家の山は、どの山よりも高く、どの峰よりも高くそびえる。国々の民はそこに流れて来る。

「多くの国々の民が来て言う。『さあ、主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに主の道を教えて下さる。わたしたちは主の道を歩もう』と。主の教え (律法) はシオンから、主の言葉はエルサレムから出るからだ。

「主は多くの民の争いを裁き、はるか遠くの強い国々を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない。

「人はそれぞれ自分のぶどうの木の下、いちじくの木の下に座り、脅かすものは何もない。方軍の主の口がそう語られた。

「どの民もおのおの、自分の神の名によって歩む。我々は、とこしえに、我らの神、主の御名によって歩む」 (ミカ書4章1-5節)。

ここでは明らかに、キリストによる至福千年の統治の始まりが述べられています！

「天国」や「荒廃したこの世」のことではなく、「多くの民」および「強い国々」のことが語られています！

イザヤ書2章にも、同様の記述があります。「終わりの日に、主の家の山 [キリストの新しい世界統治の首都としてエルサレムの象徴] は、どの山 [聖書における国家・政権の象徴] よりも高く、どの峰 [小さな国・政権] よりも高くそびえる。国々の民はそこに流れてくる。

「多くの民が来て言う。『主の山に登り、ヤコブの神の家に行こう。主はわたしたちに主の道を教えて下さる。わたしたちは主の道を歩もう』と。主の教え (律法) はシオンから、御言葉はエルサレムから出るからである。

「主は国々の争いを裁き、多くの民を戒められる。彼らは剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする。国は国に向かって剣を上げず、もはや戦うことを学ばない」(イザヤ書2章2-4節)。

今日、多くの人々の心が、無知と迷信の黒い帷で覆われています。悪魔サタンが、全世界を惑わしているのです(黙示録12章9節)。神の偉大な目的や計画を真に理解しているのは、貴重なごく少数の人々だけです。これまで見てきたように、キリストは、当惑している民衆に、「たとえ話」を用いて話されています。そのことについて、弟子たちが主に尋ねた時、主は、次のように、イザヤ書6章の文章を引用されました。「主は言われた。『行って、この民に言うがよい。よく聞け、しかし理解するな。よく見よ、しかし悟るな、と。』

『この民の心をかたくなにし、耳を鈍く、目を暗くせよ。目で見ることなく、耳で聞くことなく、その心で理解することなく、悔い改めていやされることのないために』。

「わたしは言った。『主よ、いつまででしょうか』主は答えられた。『町々が崩れ去って、住む者もなく、家々には人影もなく、大地が荒廃して崩れ去るときまで。...』(イザヤ書6章9-11節)。

無知と欺きの帷は、神が人事に介入するようになるまでなくならないでしょう。

イザヤは、この預言に当惑して次のように尋ねています。「わたしは言った。『主よ、いつまででしょうか』主は答えられた。『町々が崩れ去って、住む者もなく、家々には人影もなく、大地が荒廃して崩れ去るときまで』。

「主は、国の人々を遠くへ移される。中央にすら見捨てられたところが多くなる。

「なお、十分の一は残り、戻されるが、彼らはやつれる。木の葉の散ったテレビンの木や樫の木のように。しかし、これらの木には実体(三位一体論で神は唯一性を表現する用語)が存在する。その聖なる種子がその実体である」(イザヤ書6章11-13節)。ここでは、キリストの再臨時には、神の民であるイスラエルの民は10パーセントしか生存していないことが強く示唆されています。

神の民の「十分の一」は、集められて彼らが「昔住んでいたところ」に住むことになるのです。つまり、アメリカ人はアメリカで、英国人は英国で、カナダ人はカナダで、オーストラリア人はオーストラリアで暮らすことになるのです。この時のことを述べ

ている文章に注目して下さい。「しかし、お前たちイスラエルの山々よ、お前たちは枝を出し、わが民イスラエルのために実を結ぶ。彼らが戻って来るのは間近である。

「わたしはお前たちのために、お前たちのもとへと向かう。お前たちは耕され、種を蒔かれる。

「わたしはお前たちの上に、イスラエルの全家の人口をことごとく増やす。町々には人が住むようになり、廃墟は建て直される。

「わたしは、お前たちの上に人と家畜を増やす。彼らは子を産んで増える。わたしはお前たちを昔のように人の住むところとし、初めのときよりも更に栄えさせる。そのとき、お前たちはわたしが主であることを知るようになる」（エゼキエル書36章8-11節）。

「汝はわたしが永遠の神（エホバ、すなわちヤハウエ）であることを知るだろう」という表現は、今日的ではありません。と言うのも、大多数の人々が、永遠の神のことをよく知らないし、ナザレのイエス・キリストが「光あれ」あるいは「我々に似せて、人を造ろう」（創世記1章26節、ヨハネの手紙1を参照）と言われた三位一体の至高の神に属する存在であることを知らないからです。

至福千年の始まりの時、神がその民を「昔住んでいたところ」に再び集められることが、彼らの霊的回心に結びつくのですが、この点について、神の言葉は次のように証しています。「わたしはお前たちを国々の間から取り、すべての地から集め、お前たちの土地に導き入れる。

「わたしが清い水をお前たちの上に振りかけるとき、お前たちは清められる。わたしはお前たちを、すべての汚れとすべての偶像から清める[洗礼および「御言葉による水の洗い」を象徴]。

「わたしはお前たちに新しい心を与え、お前たちの中に新しい霊を置く。わたしはお前たちの体から冷酷な心を取り除き、人間の心を与える。

「また、わたしの霊をお前たちに吹き込み、わたしの律法に従って歩ませ、わたしの裁きを守り行わせる。

「また、わたしが先祖に与えた地に住むようになる。お前たちは私の民となりわたしはお前たちの神となる」（エゼキエル書36章24-28節）。キリストが至福千年の統治を築かれる時、どの律法に基づいて世界のすべての国々を治められることになるのでしょうか。

王国には法体系が必要です

もう一度、イザヤ書（2章）およびミカ書（4章）を通して、如何にして教え（律法）がシオンから出るか、ということを知っている神の文章を読んで下さい！

全世界の「この世の律法」は、イエス・キリストが有名な「山上の垂訓」で敷衍されている十戒になるでしょう。

これ以上論証する必要はないでしょう。聖書を利用して神の律法を廃止しようとする人々は、論理的な思考に基づき議論ができないのです。彼らは、安息日を嫌悪しているのです！彼らは、律法に従わざるを得なくなるでしょう。悔い改めることをしなければ、速やかに厳格に、罪に対する罰則が課せられるでしょう！

ここで、キリストの統治する至福千年には、週ごとの安息日だけでなく、年ごとの安息日の厳守が如何に必要とされるか、ということに注目しましょう！

「エルサレムを攻めたあらゆる国から、残りの者が皆、年ごとに上って来て、万軍の主なる王を礼拝し、仮庵の祭りを祝う。

「地上の諸族の中で、エルサレムに上って万軍の主なる王を礼拝しない者には、雨が与えられない。

「もし、エジプトの家族も上って来なければ、雨は彼らの上に降らず、仮庵の祭りを祝うためにエルサレムに上らなかった諸国の民を主が打つその災害が彼らに下る。

「これこそ、仮庵の祭りを祝うために上って来なかったエジプトの受ける罰であり、またすべての国の受ける罰である」（セガリヤ書14章16-19節）。人が誰であるのかは重要ではありません。人種、皮膚の色、言語、宗教などは重要ではありません。彼らは、キリストの世界統治政権において、仮庵の祭りを祝うことを守り続けることになるのです。

神が週ごとの安息日についてどう語っているか注目しましょう。「新月ごと、安息日ごとに、すべての肉なる者はわたしの前に来てひれ伏すと、主は言われる。

「外に出る人々は、わたしに背いた者らの死体をみる。蛆は絶えず、彼らを焼く火は消えることがない。すべての肉なる者にとって彼らは憎悪の的となる」（イザヤ書66章23,24節）。この恐ろしい描写は、神の律法（掟）を破る者—キリストの再臨の時に反抗する者—の肉体について述べています。「蛆は絶えず」という表現は、朽ち行く人間の肉を楽しんで食べる蛆のことですが、それは死ぬことなく新たに孵化してハエとなるのです。

キリストが「すべてを主の十字架に釘付けにして下さった」と説いて神の十戒を巧妙に捨てようとする何千人もの神学者がいるのですが、これらの旧約聖書の文章がはっきりと、神の十戒、週ごとの主の安息日（第四番目の掟）、年ごとの主の安息日に言及しているという事実から逃れることはできません！

上記で読んだイザヤ書2章およびミカ書4章を復習しましょう。「主の律法（教え）はシオンから！」というのは、想像力を働かせるまでもなく、神聖で義に叶った神の十戒を意味しています！

新約聖書には神の十戒を支持する文章は多数ありますが、その幾つかに注目しましょう。イエス・キリストは、山上の垂訓でこう言われました。「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思っ

てはならない。廃止するのではなく、成就するためである。「はっきり言うておく。すべてのことが実現し、天地が消えうせるまで、律法の文字から一点一画も消え去ることはない」（マタイ書17,18節）。「成就する」とは、「実行する、或いは果たす」という意味です。もし、約束を守りそれを果たさなければならない義務があなたにあるとした場合、あなたは、その約束によって必要とされる行動を実行しなければなりません。約束を破棄してはいけません！

ある金持の若者がイエス・キリストのもとにやって来て、永遠の命を受けるには何をすれば良いでしょうか、と尋ねた時、キリストが彼に言われたことに注目しましょう。「さて、一人の男がイエスに近寄って言った。『先生、永遠の命を得るには、どんな善いことをすれば良いのでしょうか』

「イエスは言われた。『なぜ、善いことについて、わたしに尋ねるのか。善い方はおひとりである。もし命を得たいなら、律法（十戒）を守りなさい』（マタイ書19章17節）。その若者がどの律法ですかと尋ねた時、キリストは十戒の幾つかを引用して、主が言及された律法がどれであるのか明確にされています。

何百万人もの自称クリスチャン－教会に通う信仰心のあるクリスチャン－が十戒を守るべきであると信じることを頑なに拒否しています！彼らの牧師は、世俗的な聖書研究集会に参加して「律法は廃止された」と教えられ、騙されているのです！

キリストが未来の世界の首都エルサレムから主の律法である十戒を執行されることに関して、上記に引用した力強い言葉をすべて読んで下さい！

最初に律法を定められた神—キリストとなられた神（ヨハネの手紙Ⅰおよびヘブライ人への手紙Ⅰを参照）—が変更すると分かっている律法をその民に与えられると、あなたは思いますか？

モーセの時代に安息日を厳守しなかった者を死に至らせた神が、その律法を変更して多くの現代人にその律法を破ることを許され、しかも至福千年には再びそれを変更して人々に課すということがあるでしょうか？そのような勝手な想像は、何と馬鹿げていることでしょうか！

神に答えて頂きましょう。「見よ、その日が来る。かまどのように燃えながら。その日、すべて高ぶる者、すべて悪を行う者は、わらとなる。来たる日には、彼らを焼き尽くし、根も枝も残さない。万軍の主は、そう仰せられる[これは、キリストが再臨される直前の「主の日」のことです]。

「しかし、わたしの名を恐れるあなたがたには、義の太陽が上り、その翼にはいやしがある。あなたがたは外に出て、牛舎の子牛のように成長する[キリストの再臨、および至福千年における主の平和の統治のことが語られています]。

「あなたがたはまた、悪者どもを踏みつける。彼らは、わたしが事を行う日に、あなたがたの足の下で灰となるからだ、万軍の主は、そう言われる。[このことが至福千年には「安息日ごとに」どのように行われるか、ということはお私たちが既に読んできた通りです]。

「あなたがたは、わたしの僕モーセの律法を記憶せよ。それは、ホレブ（モーセが十戒を授けられた山）で、イスラエル全体のために、わたしが彼に命じた律法と審判である」（マラキ書4章1-4節）。

旧約聖書を締めくくるこれらの聖句は、キリストの再臨、および主の新しい世界秩序の確立のことを語っているのです。これらの言葉は、人類のすべてが神の十戒を忘れてはいけないことを命じているのです！

神は十戒を変更されたのでしょうか？「まことに、わたしは主である。わたしは変わることがない。あなたたちヤコブの子らにも終わりはない（マラキ書3章6節）。パウロはこう記しています。「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない存在です」（ヘブライ人への手紙13章8節）。

非常に多くの人々が罪についての聖書の定義を知りません！罪とは何であるのか、知りません。神はこう語っています。「罪を犯す者は皆、法にも背くのです。罪とは、法に背くことです」（1ヨハネの手紙3章4節）。

十戒の一つでも破る者に対する罰は死です。それは最初の死ではありません。人間は一度は死ぬことになっているのです。それは第二の死です。それは、地獄の火による死であり、その死には復活はありません！それは、火による靈魂の完全な消滅です！神の王国では、神に背いた者の灰を義人が踏みつけるということは、マラキ書で読んだところです。

パウロはこう述べています。「罪に対する償いは死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主イエスキリストによる永遠の命なのです」（ローマ人への手紙 6章 23節）。ここには、2つの対極に位置することが説かれています。－ 即ち、一方における死、そして他方における永遠の命です！しかし、神は統治することできない者は誰一人救われなideいしょう！わたしたちは、自分たちの意志を神に無条件で委ね、すべてにおいて喜んで神に従うか、あるいは神の王国に存在することができなくなるかの、いずれかです！

パウロが如何に律法に畏敬の念を抱いていたか、注目しましょう。「こういうわけで、律法は聖なるものであり、掟も聖なるものであり、正しく、そして善いものなのです」（ローマ人への手紙 7章 12節）。

イエスが愛した弟子のヨハネは、彼が好んだ神の十戒について靈感を受けて多く書いています。彼はこう言っています。「わたしたちは、神の十戒を守るなら、それによって、神を知ることが分かります」（ヨハネの手紙 12章 3節）。

「神を知っている、と言いながら、神の十戒を守らない者は、偽りの者で、その人の内には真理はありません」（1ヨハネの手紙 2章 4節）。明らかに、「主を知ることは何と素晴らしいことか」といいながら神が自らの指で書かれたその律法を守ることを拒否することは、大きな虚言という罪になります！律法を書いた「キリストを愛して」いながら、しかもその律法を拒否したり、罪とは律法を破ることであるという事実<sup>じじつ</sup>に背を向けたり、罪びと一神の律法を破った者一を救うためにキリストが死なれたという事実<sup>じじつ</sup>に背を向けたりすることはできません！十字架上のキリストの犠牲は、「律法が破られた」というまさにそのことが理由だったのです！

ヨハネは更に書いています。「このことから明らかなように、わたしたちが神を愛し、その十戒を守るときはいつでも、わたしたちは、自分たちが神の子らを愛していることが分かります。

「神を愛することは、神の十戒を守ることです。神の十戒は難しいことではありません」（1ヨハネの手紙 5章 2,3節）。神を愛なさい － わたしの他に何者も神としてはならない － あなたの父母を敬いなさい － わたしたちに属さないものを盗んではいけない － 姦淫をしてはいけない － 偽証をしてはいけない － というこれらの掟のどこが「難しい」のでしょうか？



十戒の中の9つの掟の各々については、常に守られているとは限りませんが、多くの自称クリスチャンが信じています。しかし4番目の掟は特別な怒りとされています！多くの人々が、安息日を「ユダヤ教的」だと完全に嫌っています。彼らにとっては、「ユダヤ教的」なものは嫌悪すべきものなのです。「ユダヤ教的」という言葉は、多くの自称クリスチャンの口から、悪意を込めて吐き出されています。しかし、イエスはこう言われました。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない[イエスは「ユダヤ人のために定められた」とは言っていません]。

「だから、人の子は安息日の主でもある」(マルコ書2章26,27節)。では、どの日が「主の日」なのでしょう？それは、キリストが主である日です！すなわち、安息日です！

神のお気に入りダビデは言っています。「わたしはあなたの律法をどれほど愛していることでしょうか。わたしは、一日中、あなたの律法のことばに心を集中しています！」(詩篇119章97節)。神の律法を破った時に激しく後悔したダビデは、来たるキリストの至福千年の統治には、あなたの王、そして私の王になるでしょう！

エゼキエルはこう預言しています。「わたしは彼らの上に一人の牧者を立て、彼は彼らを養う。それは、わが僕ダビデである。彼は彼らを養い、その牧者となる。

「また、主であるわたしが彼らの神となり、わが僕ダビデが彼らの間で君主となる。主であるわたしがこれを語る」(エゼキエル書34章23,24節)。

神の言われるところによれば、離散民の僅かな者だけが、即ち、イスラエルの10部族のすべての国々の「残りの者」だけが、天の合図である“7つのラッパと災い”、“最後の7つの災い”、および“キリストの再臨”によって神が介入されることにより救われることとなります！これは恐ろしい時になるでしょう — おそらく、多くの国家の人口の90パーセントが死ぬことになるでしょう！

神は、この驚くべき警告を書き記すようにエレミヤに告げられました。「見よ、わたしの民、イスラエルとユダの繁栄を回復する[再び、彼らを捕らわれの身から救い出す]日が来る、と主が言われる。わたしは、彼らを先祖に与えた国土に連れ戻し、これを所有させる。

「次の言葉は、イスラエルとユダについて、主が語られたものである。

「主はこう言われる。おののきの声、恐怖の声を我々は聞いた。平安の声はない。

「男が子を産めるか、さあ、尋ねてみよ。どうして、男は皆、子を産む女のように、腰に手を当てているか。どうして、皆の顔が青ざめているのか。

「災いだ、その日は大いなる日。このような日はほかにはない。それはヤコブの苦難の時だ。しかし、ヤコブはここから救い出される[「ヤコブ」とはイスラエル、つまり、ユダ族を除く10部族から成るイスラエルのことです。彼らは、大きな艱難「から」救われることになるのですが、その艱難を経験することになります]。

「その日にはこうなる、万軍の主は言われる。お前の首から靴を砕き[獣と偽りの預言者の「靴」：イザヤ書47章5-11節を参照]、縄目を解く。再び敵がヤコブを奴隷にすることはない。

「彼らは、神である主と、わたしが立てる主ダビデに使えるようになる。

「わたしの僕ヤコブよ、恐れるなど、主は言われる。イスラエルよ、おののくな。見よ、わたしはお前を遠い地から、お前の子孫を捕囚の地から救い出す。ヤコブは帰って来て、安らかに住む。彼らを脅かす者はいない」（エレミヤ書30章3-10節）。

キリストが再臨されるという事よりも良き知らせが他にあるでしょうか？イエス・キリストの福音、この世を千年間統治する「神の王国が近づいているという良き知らせ」よりも励みになる素晴らしい良き知らせが他にあるでしょうか？

アメリカ、英国、ドイツ、ロシア、中国、日本、等の諸国を、キリストと共に統治する幸運を授けられること以上に素晴らしい約束が他にあるでしょうか。次の言葉に注目して下さい。「征服する者に、わたしの業を終わりまで守り続ける者に、わたしは、諸国の上に立つ権威を授けよう。

「彼は、鉄の杖をもって土の器を打ち砕くようにして彼らを統治する。わたし自身が父から支配の権威を授けられているのと同じようにして」（黙示録2章26,27節）。

私たちは、悪魔サタンが支配するこの悪の世界に勝利しなければなりません。神の聖霊の力を通して、私たち自身の人間性を克服しなければなりません！

ペテロは、衝撃を受けて驚えているキリストを死に至らせた加害者たちに向かって命じました。「...悔い改めなさい。あなた方すべてがイエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を許していただきなさい。そうすれば、賜物として聖霊を受けます」（使徒行伝2章38節）。

来るべき神の統治の良き知らせ

「福音」は神が人事に介入してくださることになるという素晴らしい良き知らせを告知するメッセージです！それは、想像力を遥かに超えた規模で私たちに驚愕させて世界を揺るがす出来事についての「今日的な」メッセージです！

マタイ書24章およびルカ書21章に記されているように、オリーブ山におけるキリストの預言は、大地震について - 飢饉について - 異常気象について - 戦争と戦争のうわさについて - 恐ろしい宗教的迫害について - 語っています！

主はこう言われました。「戦争の騒ぎや戦争のうわさを聞くだろうが、慌てないように気をつけなさい。そういうことはまず起こらねばならないが、まだ世の終わりではない[現在の人類文明の終わり]。

「民は民に、国は国に敵対して立ち上がり、方々に飢饉や地震が起こる。

「しかし、これはすべて産みの苦しみの始まりである。

「そのとき、あなたがたは苦しみを受け、殺される。また、わたしの名のために、あなたがたはあらゆる民に憎まれる。

「そのとき、多くの人がつまづき、互いに裏切り、憎み合うようになる」（マタイ書24章6-10節）。これ以上に真実の言葉は、語られたことはありません！わたしたちは現在、主がここで描写されている出来事、驚くほど激烈な言葉に満ちたこの章全体の出来事が起こる直前の時に生きているのです。主はこう言われています。「不法[無法一罪]がはびこるので、多くの人の愛が冷える。

「しかし、最後[人生の最後または時代の最後]まで耐え忍ぶ者は救われる。

「そして、この神の王国の福音はあらゆる民への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。それから終わりが来る。

「預言者ダニエルの言った憎むべき破壊者が、聖なる場所に立つのを見たら（これを読む者は悟りなさい）

「そのとき、ユダヤにいる人々は山に逃げなさい。

「屋上にいる者は、家にある物を取り出そうとして下に降りてはならない。

「畑にいる者は、上着を取りに帰ってはならない。

「それらの日には、身重の女と乳飲み子を持つ女は不幸だ！

「逃げるのが冬や安息日にならないように、祈りなさい[安息日が依然として神の命じられた安息日でないならば、キリストは再臨の時についてこのような警告はされなかったでしょう!]

「そのときには、世の初めから今に至るまで、いまだかつてなかったような、またこれからもないような大いなる艱難が来るからである。

「神がその期間を縮めてくださらなければ、だれ一人救われぬ。しかし、神は選民のために、その期間を縮めてくださるであろう」(マタイ書24章12-22節)。

この世の統治する神の王国に関する力強い良き知らせの真実は、主がもたらされたメッセージを無視する神の子イエス・キリストの「昔々の物語」と何と異なっていることでしょう!

私たちは今、福音についての本当の真実を、自分の聖書を通して見てきました!それは、未来に向けた戦略的な計画です。それは、21世紀のための地図です。それは、この罪に悩み、災害や戦争が多発し、貧困に苦しみ、憎しみに満ちた悪魔的な混乱の世界に、最終的な平和をもたらすという全能の神および神の子イエス・キリストの計画なのです!

皆様が神の恵みと慈悲により、主の証しと警告に心を留めて、主の前で悔い改めることが出来ますように!ペテロは、こう叫んだように、「...邪悪なこの時代から救われなさい」(使徒行伝2章4節)。

近い将来、全能の神が人事に介入されるでしょう!主は、主の僕たちにこの良き知らせを前もって宣べ伝える権限を与えられたのです!これは、非常に重大な意味をもつメッセージです。人間の生命の目的そのもの - 何故、神は人類をこの世に置かれているのか - 何故、イエス・キリストは人類の罪のために死なれたのか - 何故、イエス・キリストは再臨されるのか - ということを明らかにするメッセージです!神に召集された人々はすべて、良き知らせを世界に伝道する偉大な任務に協力することが求められています!

皆様は、神が召集された人でしょうか?ガーナーテッド・アームストロング福音伝道協会と密接な協力関係にある「世界を結ぶ神の教会」(Intercontinental Church of God)から授けられた伝道者の訪問を希望される場合は、(903)561-7070に電話をして頂くか、以下のアドレスに手紙かEメールをお送り下さい。

みなさま ゆうじん かぞく かぎ ほんこう むりよう はいふ いただ けっこう ただ  
皆様の友人やご家族に限り、本稿のコンテンツをコピーして無料で配布して頂いて結構です。但  
し、その場合、本稿のコンテンツに変更を加えることなく、著作権者および出版社の名前を明記し  
て下さい。一般読者のために出版することは禁じられています。

この出版物は、個人の学習ツールとして使用することを意図しています。人間の言葉に何か深い  
意味を求めるのは賢明ではありません。すべてのことについて、『聖書』の内容と比較して正しい  
か誤っているかご自身で検証して下さい。

The Garner Ted Armstrong Evangelistic Association  
P.O.Box 747  
Flint, TX 75762  
Phone: (903) 561-7070 • Fax: (903) 561-4141

さんこうぶんけん い か むりよう にゆうしゆ  
参考文献は、以下のウェブサイトから無料で入手できます。  
[www.garnertedarmstrong.ws](http://www.garnertedarmstrong.ws)

ガーナテッド・アームストロング福音協会の活動は、キリスト教徒とイエス・キリス  
トの教えに従って福音を説く協力者からの自発的な十分の一税、奉納及び献金で成り  
立っています。